

聖路加看護学会

ニュースレター

第13回聖路加看護学会学術大会に向けて 第13回聖路加看護学会学術大会のご案内 (第2報)
平成19年度聖路加看護学会学術交流会 Lobby お知らせ 編集後記

第13回聖路加看護学会学術大会に向けて

第13回学術大会長 杉本 正子 (東邦大学)

今回は、メインテーマを『死生観を育む』にしました。

人も他の生物と同様に、生まれそして死んでいきます。寿命は程度の差はありますが、死は誰にも訪れるものです。看護に携わる人々にとっては、生や死は一般の人々よりも身近な事として受け止めるでしょう。病院で闘病されている患者さんや地域の訪問看護の利用者さん、そして家族や友人たちの闘病や死から、私たち看護師は様々なことを教えられます。年齢や経験の違いなどから生や死に対する考えは様々ですが、一人ひとりこれまでの生き方から自然な形でご自分の死生観を育てていってほしいと思います。ハリー・ポッターの1巻(賢者の石)の中に、興味深い死のとりえ方の描写があります。不老不死の「命の水」の源である賢者の石を手に入れようと悪者ヴォルデモートは、ハリーと闘います。もちろんハリーが勝利し、石は悪者の手から逃れます。この石に執着する人間への戒めをこめて、魔法学校の校長ダンブルドアはハリーにこう述べています。「ハリー、死とは長い一日の終わりに眠りにつくようなものだ。結局、きちんと整理された心を持つ者にとっては、死は次の大なる冒険にすぎないのじゃ」と。なぜ人は生きるのか、そして死ぬのか、根源的なこの命題について、それぞれの立場から一緒に考える機会としたいと思います。

プログラムの会長講演「生の延長線にある死に向けて(仮)」では、闘病や死に向かう人々に対して看護職として出来ること、そして今回は従来のお坊さん像とは全く異なる行動的で地域(国内外を問わず)に根ざした活動を実践されている信州松本の神宮寺ご住職の高橋卓志氏の特別講演を企画しました。その他、温灸・ホメオパシー・カラーセラピーなどの代替療法の交流集会など、深刻になりそうな本テーマを明るく検討していきたいと思います。

会員の皆様には、日頃の研究、活動成果を、一般演題(口演・示説)、事例検討、交流集会でぜひ発表して下さい。皆様にとって明日につなげる機会としたいと思います。ぜひ多数の皆様のご参加をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

第13回聖路加看護学会学術大会のご案内 (第2報)

メインテーマ: 「死生観を育む」

大会長: 杉本 正子 (東邦大学医学部看護学科)

日時: 2008年9月27日(土) 10:00~17:00

会場: 聖路加看護大学 東京都中央区明石町10-1

プログラム

・会長講演: 「生の延長線上にある死に向けて」

・特別講演: 「生きること死ぬこと(仮)」

信州松本市神宮寺住職 高橋 卓志氏

・交流集会、一般演題(口演・示説)

演題募集:

<演題登録>: 2008年3月24日(月)~4月21日(月)

<抄録原稿>: 2008年3月24日(月)~5月19日(月)

演題申込はすべて電子投稿(オンライン)のみです。

聖路加看護学会 HP: <http://slnr.umin.jp/index.html>

の第13回聖路加看護学会学術大会のお知らせ【演題申込】で行ってください。

参加費

<学会員> 3,500円(当日参加 4,000円)

<学会員>(大学院生) 2,500円(当日参加 3,000円)

<非学会員>(大学院生含む) 4,500円(当日参加 5,000円)

<学部生> 2,000円(当日参加 2,000円)

*事前申し込み期限 2008年8月8日(金)

問い合わせ

学術大会事務局: 〒143-0015 東京都大田区大森西

4丁目16-20

東邦大学医学部看護学科

美ノ谷研究室内

FAX: 03-3766-3914

e-mail: luka@med.toho-u.ac.jp

*詳細は、同封の「第13回聖路加看護学会学術大会のご案内」をご覧ください

平成19年度聖路加看護学会学術交流会主催パネルディスカッション

看護は国境を越えて何ができるか



当日の様様

2007年8月4日、聖路加国際病院トイスラーホールにて「看護は国境を越えて何ができるか」をテーマに学術交流会が開催された。まず、学術交流委員会委員長の中村めぐみさん（聖路加国際病院）から、「看護師が海外に行くときに自分に何ができ、何が提供できるのか考えられるようになってほしい」との挨拶があり、田代順子さん（聖路加看護大学）の通訳によりリチャード・ガーフィールド博士（米国コロンビア大学・聖路加看護大学客員教授）の講演が始まった。ガーフィールド博士は、看護師として救命救急の現場で働いた経験があり、その後公衆衛生学、疫学を専門領域として学び、ブラジル、中南米、イラク、スーダンなど情勢が混乱している、あるいは災害後の諸外国に対する支援を得意としているということであった。博士は、自分の仕事を例として活用して欲しいという意図から、自らの初期の活動から最近の活動について語り、外国の研究者が現地に入って技術援助をすることの意味について示された。

はじめに紹介されたのは、卒後、病院で2年間働いた後、中南米のニカラグアというヘルス・ケア・システムがない国で仕事を始めたときの話であった。そこでは政府によるマラリア対策に関わり、必ずしも政府が患者発生の数値を的確に把握しているわけではないことがわかり、外国の人間が、そ

の数を測定し分析することの重要性を指摘するということが重要な技術支援となり得た。また、こうした技術援助を行う際には、科学的見解ばかりではなく、現地でその問題に関わっている人たちと共に仕事をする中で変化が起こるものであり、そこでの政治的な背景が強く影響していることだった。

次にユニセフからの依頼でユーゴスラビアに行ったときの話しが紹介された。ユーゴスラビアでは、1990年の経済制裁があり、そのために乳児死亡率が上がっていた。共産圏であり医療システムは整備されていたが、データをみると乳児死亡率、罹患率が上がっていた。人々は、限られた予算を節約して使い、物が無い、薬がないという環境の中で、家族は子供たちのために栄養をつけ、病気を予防してきた。具体的にはミルクでなく母乳を積極的に与えるようにし、その結果として乳児死亡が減ってきたことが確認された。このように国民は経済制裁に対して十分に対処していたという状況であったが、国内ではそうした認識が薄く、外国から来た者としてそれを明らかにし、政府の取り組みが良い方向に向かっていることに自信が持てるよう、励ましをしたとのことであった。経済封鎖はさまざまな健康問題を引き起こしていることがわかり、それは一度の技術支援では解決しきれないことであり、何度も足を運ぶことが真の協力につながるとのことであった。

健康問題は各国の政治や経済が深く影響を及ぼしているのだろう。その国の中にはわからなくなっていること、あるいはわからなくされていることなど、問題の背景となる事情を良く知り、そこに関わっている人々の考えやつながりをよく知り、その上で他の国の人間として意見を述べていくことが、国際協力での技術支援として重要であることが伝わってきた。

後半のパネルディスカッションでは、まず、開発途上国における保健・看護人材開発協力の実情として、田代順子さんが中心に取り組んでいる国際医療協力研究プロジェクトについて報告された。このプロジェクトの目的は、世界の健康格差を提言する活動に貢献できる国際看護コラボレーターの育

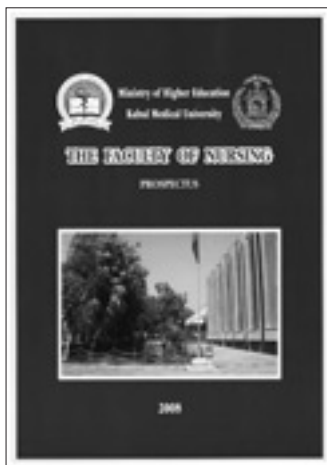
成と実践モデルを開発することである。

一つ目は、ケニアで地域看護修士課程の開発に協力している成瀬和子さん（聖路加看護大学大学院後期博士課程）からの報告である。ケニアには地域看護のコースはあるが学生がいないという。国情が不安定であり、政府は看護教育への予算を減らしているとのことであった。国外に留学した看護師たちはケニアには戻ってこないため、おのずとアフリカの健康問題を研究するのは外国人となっているのが実態であり、自国における看護高等教育の必要性は高いということが報告された。



ケニアのヘルスセンターにおける母子栄養指導の様子

二つ目はアフガニスタンでの学士課程における地域看護学教育プログラムの開発協力について長松康子さん（聖路加看護大学）が報告した。タリバンによる圧制、多くの難民、天災などにより復興が進まない中、0歳児の平均余命は40歳台であると言う。地域保健の中でも特に学士レベルの母子保健に力を入れたカリキュラムを協力して作成中とのことであった。



聖路加看護大学とカブル医科大学が協働して作成した看護プログラムパンフレット

三つ目はミャンマーでの女性ヘルスワーカーの教育協力について大黒道子さん（聖路加看護大学後期博士課程）から報告された。人口45万人のマンガレー管区メディーラ市において、妊産婦検診の促進、予防注射の促進、お産の支援という目的をもったヘルスワーカーを育成するに当たり、活動強化要因、活動弱体化要因を分析していた。女性がグループの中で同意を得ながら活動を展開していくというプロセスが存在していない社会の中で、健康に関する新たな知見を人に伝え、共有し、地域の権威者から支援と承認をもらいながら、少しずつ変化していくことに関わってきたという。看護職として国境を越えてみて、人々のリアリティを尊重すると援助の方法が見えてくる。計画通りに進めようとするのではなく、住民の声に耳を傾けることで見えるものがあった。共感と想像力、さらに自らの専門への深い造詣が必要であったとその活動からの学びについて語っていた。



ミャンマーの女性ボランティア支援の様子

最後に海外における臨床看護師のボランティア活動として、聖路加国際病院ボランティア団体ルカ・ジャパンについて上野まき子さんから、カンボジアでの活動を中心に報告された。ルカ・ジャパンは阪神淡路大震災をきっかけに、聖路加病院での仕事を通じて得たものを活用する趣旨で結成されたという。カンボジアで検診を行う活動は2001年から毎年行っている。上野さんは、常にそこで自分に何ができるのかを自問している。また送り出してくれるスタッフが病院の中にいることを意識しながら、地球の一員として自分の力をフィードバックしていくことを感じ活動していきたいと国際ボランティアへの思いを語った。

医療や看護は国境を越えても共通の何かがあるということをもさまざまな活動の報告から確認することができたように思う。皆様の貴重な経験を共有できたことに感謝いたします。

文責 学術交流委員会

今回の学会テーマ「死生観を育む」に関連した書籍をご紹介します。

J. K. ローリング、松岡佑子訳 (2003) : ハリー・ポッターシリーズ1巻、ハリー・ポッターと賢者の石、静山社
大人、子どもを問わず、大人気のシリーズの一巻目。両親をヴォルデモートに殺されたハリーは、幼いころから死について考える子どもでした。幾多の闘いを乗り越えて成長していくハリーと共に、生や死について考えさせられます。死のとなえ方が明るく前向きで、私は大好きです。

上野千鶴子 (2007) : おひとりさまの老後、法研
とかく高齢になると多少でも気弱になり、誰かにたよりにたよります。そんなあなたに「湯」を入れてくれること、うけあいです。生き生きと前向きに...、でも肩肘はらずに...、そんな楽しい老後を予感させてくれる本です。

河合隼雄 (2007) : 子どもの宇宙、岩波新書
1987年に発刊され、41刷目になります。子どもの中に広がる宇宙を、様々な角度から切り取ります。VI章の「子どもと死」では、児童文学を手がかりに「死そのもの」について掘り下げています。その中の一冊、リヒターの「あのころはフリードリヒがいた」は、ユダヤ人の少年の死の意味を読者に投げかけています。内容が重い本ですが、人間の犯した罪の一つとして読まなければならないと思います。(杉本正子：東邦大学)

お知らせ

学术交流委員会

今年度の学术交流会は時期を変更し、2008年9月27日(土)、第13回聖路加看護学会学術大会終了後に同会場(聖路加看護大学)で引き続き行います。テーマは「看護の目から見直す医療の中の衣食住 医療づけにしないためのケアのあり方」を予定しています。入院生活においてパジャマは本当に必要か? 口から食べるための工夫、寝たきりにしないための病院環境などについて、パネルディスカッションを企画中です。聖路加が大切にしてきた“個々の患者のQOLを重視したケア”の実践に焦点を当て、日頃の考えや取り組みを紹介し合いたいと思います。事前申し込みは不要ですので、気軽にご参加ください。(担当理事：中村めぐみ)

庶務

- ・10月から新年度(2008年)が始まり、11月に行われた第1回理事会では、主に本年度の選挙開催に向けて選挙管理委員会の立ち上げと委員選出の検討がなされました。選挙管理委員長は、森明子氏(聖路加看護大学)、委員は廣岡佳代氏(聖路加看護大学看護実践開発研究センター)、高屋尚子氏(聖路加国際病院)です。また、本年度会費を4月30日までに納入した評議員は、役員選挙権を有することができ、さらに入会年度を含めて3年以上経過している会員が評議員の被選挙権を有することが出来ますので、宜しく願い申し上げます。
- ・現在の会員数は583名です。会員の皆様、周囲の方々にも本学会への勧誘をお願いいたします。「入会の案内」は、学会ホームページをご覧ください。
- ・3月と4月は移動の時期です。皆様の勤務先や所属、住所などの変更がありましたら、本部事務局まで速やかにご連絡くださいますよう宜しくお願い致します。事務局への連絡は、郵便、Fax、E-mailのいずれかをお願い申し上げます。
E-mailaddress : slnr@slcn.ac.jp Fax : 03-5565-1626.
(担当理事：高木廣文、大久保暢子)

学会誌編集委員会

すでに学会ホームページ等でお知らせしておりますが、2008年度より、本学会誌は年2回発行することになりました。現在、第12巻1号の編集作業を進めており、このニュースレターがお手元に届く頃に、1号の発行を目指しています。
2号は投稿論文を主体とし、7月発行予定です。実践研究、事例研究、文献レビューなど、多くの投稿をお待ちしています。投稿の際には、更新しました投稿規定を確認下さいますようお願い致します。(担当理事：木下幸代、及川郁子)

会計

本年度は選挙が行われます。従いまして2008年度の年会費は4月30日までに振込みいただきますようよろしくお願い致します。過去の納入がお済でない方は本年度分とあわせて納入をお願いいたします。
振込み先：郵便振替口座 00100 - 8 - 670371
加入者名 聖路加看護学会
過去の納入状況についてのお問い合わせは kaoru-osumi@slcn.ac.jp もしくは 03-5550-2265 (大隅)までお願いいたします。(担当理事：田中美恵子、大隅香)

編集後記

この冬は雪がたくさん降って、冷たい冬でした。聖路加看護大学前の芝生に積もった雪に子どもたちや犬が大喜びでした。(Y・N)